

〈名画の扉〉

大川美術館展示から

川合玉堂の作品は、む橋本雅邦に師事した同時代の横山大観の放胆さも、また竹内栖鳳の鋭さもないけれども、いかにも「日本画」という印象です。これを「伝統」といって、これに加えて、写生しようと、どうもこれまでの批評の言葉にあってしまいます。絵画の「伝統」という言葉は、近代になってつくられたのです。とはいえ、この作品をみると、やはりどこかなつかしく、安心してしまうのです。若い時期に、京都で円山四条派を学んだ後に、東京で狩野派の流れをく

川合玉堂の作品は、む橋本雅邦に師事した同時代の横山大観の放胆さも、また竹内栖鳳の鋭さもないけれども、いかにも「日本画」という印象です。これを「伝統」といって、これに加えて、写生しようと、どうもこれまでの批評の言葉にあってしまいます。絵画の「伝統」という言葉は、近代になってつくられたのです。とはいえ、この作品をみると、やはりどこかなつかしく、安心してしまうのです。若い時期に、京都で円山四条派を学んだ後に、東京で狩野派の流れをく

「梅咲く山家」

1950年、紙本彩画
12.4cm X 34.0cm



川合玉堂 1873-1957年

(田中淳)